

2022年9月21日 鉄道開業150年記念セミナー

～文明開化・技術革新の先駆者たる鉄道と発展する都市の歴史と未来～
宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所 会長の宿利正史です。

本日は、ご多用の中、大変多くの皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

また、公務ご多忙のところ、来賓として斉藤鉄夫国土交通大臣にご出席いただきました。心より御礼申し上げます。斉藤大臣には後ほどご挨拶をいただくこととなっております。

今年、1872年（明治5年）10月14日に新橋と横浜間を結ぶ日本初の鉄道が開業してから150年を迎えます。この節目の年に当たり、日本の首都ここ東京において国鉄の歴史を受け継いで事業を行っておられるJR東日本の幹部から、150周年記念行事の一環として、鉄道と都市の歴史と未来に関するセミナーの開催について当研究所に協力の要請をいただきました。

当研究所としても、1968年（昭和43年）に運輸経済研究センターとして設立以来、例えば、その後の都市鉄道の運賃改定の考え方の基となった研究調査、国鉄改革における鉄道貨物輸送のあり方の検討の基となった研究調査、常磐新線、現在のつくばエクスプレスの整備として結実した鉄道整備と宅地開発の一体的実施に関する研究調査など、鉄道に関する数多くの研究調査を実施してきた立場として、ご要請を二つ返事でお引き受けすることといたしました。

今回のセミナーは、このような経緯から、JR東日本と当研究所との共同開催として、国土交通省の後援もいただき実施するものであります。

さて、汽笛一声、陸蒸気で新橋から横浜までを50分強で結んだ鉄道は、英国の技術と技師の協力を得つつ、機械技術、土木技術ともに当時の先進技術の粋を集めたまさに技術革新の申し子であり、文明開化の象徴でありました。

富国強兵、殖産興業の時代から高度経済成長の時代に至るまで、戦禍による中断をはさみつつも、鉄道のネットワーク拡大と輸送力増強が進められ、その技術革新は、1964年に世界の高速度鉄道の先駆けである東海道新幹線の開業という形で結実しました。

一方で、鉄道開業100年に当たる1972年（昭和47年）は、その翌々年をピークとして国鉄の旅客輸送量が減少に転ずるなど、特に国鉄について「量」の拡大を追い続けていた鉄道のあり方そのものが問われるという、時代の境目でもありました。

その後、1987年（昭和62年）に国鉄の分割・民営化によりJR各社が発足し、大都市圏の大手私鉄がその創業以来行ってきたような、地域に密着し、まちづくりと連携した「質」を重視する鉄道事業運営を行う環境が整備されたことは、会場の皆様もよくご承知のとおりであります。

そして、時代は「昭和」から「平成」へ、さらに「令和」へと移り変わりました。この間、我が国においては、少子高齢化の進行、ライフスタイルや働き方の多様化、DXの進展といった社会環境の変化に加え、鉄道開業150年を前にして、新型コロナウイルス感染症の流行という思いがけぬ厳しい事態に直面することとなり、鉄道事業者の皆様方も、そのビジネススタイルの変革を図りながらこれらの状況に対応しようとしています。

加えて、グローバルな課題として、脱炭素社会の実現とともに、包摂性やウェルビーイングなどSDGsの達成が求められていますが、鉄道がこれにどう応えていくか、もこれからの重要な課題です。

私が先週訪れた英国ロンドンでは、英国初の高速鉄道HS2の建設工事と駅周辺整備が進められており、また、ロンドンを東西に横断する新線エリザベスラインも部分開業するなど、世界は今改めて鉄道に着目し、その進化・発展に注力しています。

このような中、鉄道開業の地、新橋・横浜間にあり、これまで鉄道輸送を支える車両基地機能が集積していた高輪ゲートウェイ駅周辺において、JR 東日本により「100年先の心豊かなくらしのための実験場」となるまちづくり、まさに鉄道と都市の未来を体現する取組みが進められているところです。

本日のセミナーにおいては、このような背景を踏まえ、我が国の国民生活及び産業・経済の発展の礎となってきた鉄道と発展する都市の歴史について振り返るとともに、鉄道と都市の未来像について、皆様と一緒に考えてみたいと思います。

まず、はじめに、当研究所の研究アドバイザーとして種々ご指導いただいている政策研究大学院大学客員教授・名誉教授の森地茂様と、都市計画、交通工学がご専門でいらっしゃる一般財団法人計量計画研究所代表理事の岸井隆幸様のお二方から、基調講演をいただきます。

その後、森地様にコーディネーターになっていただき、パネリストとして、岸井様、JR 東日本代表取締役副社長の喜勢陽一様、JR 東日本文化創造財団において、高輪ゲートウェイシティに建設される文化創造棟の準備室長をされている内田まほろ様のお三方にご登壇いただき、「グローバルゲートウェイ品川再開発を中心とした新たな鉄道と都市の姿」をテーマにパネルディスカッションと質疑応答を行います。

本日のセミナーがご参加いただいております多くの皆様方にとりまして有益な示唆に富んだものとなりますことを期待いたしまして、私の挨拶いたします。

(以上)